市民の声

市当局や議会、または個人同士の攻撃にならぬご意見をおよせ下さい。

締切り＝毎月二十日
宛先き＝市役所内広報係

自然をなめな

自然の力は一見無力なように見えるときもあるが、どうしてなか〳〵大したものである。

これに比べて人間の力なんかたかがしれている。

最近では苗代技術が進んで蒔く期時も段々早くなりつゝある。四月一日前後に蒔いていたものが今年あたりでは三月十五日と約半月も早くなつてきた。

昨年までは幸いにも早く蒔いても大した害もなくて立派な苗ができて田植も予定通りにできた。

これに気を良くして今年は十五日に蒔くようにとの指令が回覧できた。これの出所は相談所あたりであると思われるが（他かもしれない。）最近の農民は昔と比べて指令はよくきくようになつているので十五日附近に皆蒔いた。

そのあるものは他人のこころと健康を害するかにみえる。

手近かなところから拾うとある店になまのお菓子を卸しにくるおばさんは、ホコリがいつぱい積つた菓子箱のふたを裏返しもせずお菓子をならべてから店の陳列容器に飾りたてるが、この間指先にお菓子がくつつくとペロリとなめて次のをつつく。

男にしてもそうだ。店にくる途中立ち小便しておいてその手を洗わめばかりか、油と手垢でよごれた細引きをといてパンや生菓子をつまんでいる。

市内のあるトーフ屋にいつたところ、庭においた製品にはホコリがかかり、銀バエが二、三匹たかつていたのも事実。また後免町のセンターにある魚屋さんの中には、血でにごつた洗い水を道に撒くものがある。この水はすぐ乾いて血はホコリにくつついて飛び散つている。

公衆浴場に夜おそくいくと脱衣場も綿ホコリがたまつていることもある。

市当局に改めたいこと

市政はしかれたが、わたしたちの身辺をみまわすとき市政施行地にふさわしくない非衛生的なことがずいぶん多い。

期としていたのは何百年来の経験にもとづいて一番良い時期がひとりでに三月の下旬となつたものと思われる。

今年位い早く蒔いたことは初めてであり、害を受けたことも初めてである。

私の知つている人の中にも苗代の不良の為に寝込だ人がいる。

今年十日五に蒔けと指令を出した人は農家の利益を思つてのことゝは十分にわかるが、今から思えばあまりにも自然をなめすぎている。

前半作と言われているから今年の稲作は安心できない。

百姓は自然が相手であるから今後の指令は自然の力を考えてから指導して戴きたい。

（鉄　空）

広報は市民のもの

夫る二月十五日付の市発行の広報は「人事の云々」と書いてある所を消してあるが、一般市民が読めば、何か市役所の悪い事でも書いてあると思う。

広報は市役所が発行していても、一般市民の広報と思い今迄良く読み、役所関係の事も良く分り、市の発展にもなり、一般市民の声も分つて市民より慕れて居るにかゝわらず、今度のような悪い印象を与えた事を市当局に聞きたい。

広報は一般市民のものであり、市役所内の悪口を書いてあるからといつて消せば広報でなく、官報である故市民の広報といえない。

今後このような事がないよう市民の投書あれば原文のまま載せる事が広報の義務であると思う。

（一市民）

市役所の返事

前号の一部記事中黒抹した部分につき指摘されていますが、同部分は多分に個人攻撃の感が強く、人権尊重の面から、また「市民の声」の要件に明記されていることに抵触すると考え黒抹したもので、もちろん筆者の意見は尊重し掲載することに異論はありませんが

だからといつて排他的な記事はどうにも載きかねます。

匿名だから何を書いてもよいというものではなく、責任ある「市民の声」を書かれるよう、できれば職業、年令、氏名等を明記されたご意見が次第に多くなるよう希望します。

黒抹したことは、編集時の問題点がそのまゝ印刷されたもので、広報の体面からいつてよいものではありませんが、再度印刷せず黒抹し配布したものです。

また原文のまゝといわれていますが、紙面の都合上、長文のもの、或は同意見のものなどについては要約、または割愛させて戴きますので悪しからずご了承下さい。

チリにこまる

後免町内の家庭ではチリの始末にこまつている。

ということは回集車が回つてくるのが少ないためだ。わずか一人であるから無理はなく、これ以上担当者に負担をかけることはできない。結局市は増員することに着目してもらいたい。

衛生委員会にしても、この実情をよく知つて善処方をはかられたい。

このままでは、非道であることを知りつゝ、また用へ流すほかない。

（太　郎）

たのに、コミ車のくる回数が少ないため、どの家庭のチリ箱も山盛りとなり、異臭プンプン。

たまりかねた衛生委員は市当局に善処方を要望したが結果は「予算がない」と、きいてもらえず、いま地元では逆方にくれ、再び一部では用をチリ捨て場にしはじめている。

以上のことは後免町中心になりはしたが、市内どこでもこれに通じることがあるようだし、おたがいの自覚と市当局にも考えていらつて、こんな常識以前の事態をなくすることにつとめよう。

主張　改めたいこと

生委員会などが音頭を取つて啓発と指導に乗り出してほしい。

これがためには財政の裏付けが必要だ。

後免町衛生員会はかねてから町内の用にチリ、アクタを捨てぬように呼びかけ、町民も呼応するようになつてくれないこともあり、いずれも事実の一例であり考えよう一つで改めることができる。直接の指導取り締りは保健所だが、ここは人手不足といつてみむいてくれない。とすると市政活動の一つによつて地区の衛生委員会にしてもらいたい。

平坦部

ことしの田植
トップ（三月下旬）市内片山で

5～6月の農作業

南国農業改良普及所

三月末から四月上旬にかけての低温で平坦部では早生種苗代に思わぬ寒害を受け、予定よりも大分田植がおくれ、植えいたみ等もありましたが、どうやら予定面積の田植も出来たしその后の活着生育もまづ〳〵と云つた所で一安心。

しかし今年は梅雨の入りも早く五月下旬からと予報されていますのでこれからの肥培管理に充分注意しましょう。

一、追肥、除草、中干し、水の管理

二、窒素肥料の追肥は控え目とすること。

三、一般に苗不足で一株の植付本数少く、越路早生や豊年早生は別として、とわだや藤坂等分蘖の少い品種は分蘖（穂数）が足りなくて減収する事も考えられますので、追肥は早目に施し出来るだけ浅水にして分蘖の促進をはかつて下さい。

三、一般にレンゲの鋤込量が多いので活着すればガス抜きの為に温かい日には時々落水して下さい。

四、除草は大体五月一日一杯で終るようにし、二、四、Dを使用する場合もこの時期迄に一〇アール（反）当四〇g程度を天気のよい日を選んで上手にかけて下さい。

二、四Dは雑草を枯らす、他無効分蘖の抑制、倒伏の防止等重要な役割をします。

五、五月末から六月上旬には水の干せる田は軽くヒビが入る程度に中干しして下さい。中干しすることによつて過剰な窒素の吸収を抑えて、無効分蘖を抑制し健全な生育をとげることになります。

幼穂形成期以后は充分灌水することが必要です。

六、穂肥は普通六月上旬～中旬、幼穂が肉眼で見える程度になつた時（出穂二十三日位前）に塩安なれば七、五kg（二貫）位と塩加四kg位を混ぜて施しますが、天候、レンゲの肥効状態、生育状態等により加減して下さい。

山間部

一、一番草は早く。中稲の植付準備等のために、一番草がおくれがちになります。特にレンゲや山草を多く鋤込んだ所はガスが出て活着がおくれます。このガス抜きのためにも一番草は早く取つて早く活着させ、生育を促進させて下さい。

現後の除草は六月上旬までに終るようにし、二四Dを使用する場合は平坦部に準じ六月上旬までに終るようにして下さい。

二、水の管理に注意活着後はなるべく浅水にし地温を上げ分蘖を促進しましょう。

水の便利が良く中干の出来る所は六月十日頃に田に軽くヒビが入る程度に干して、現後は充分水を入れて下さい。

三、穂肥を施す。

穂肥を施す幼穂形成期は標高、水温、日当り等により非常に異なりますが、六月中旬を目安すに幼穂を調査して観察の幼穂が二～三ミリになつた時に、塩安で五、六kg（一、五貫）位と塩加四kg（約一貫）程度を、元肥の量、天候、生育状態を良く見きわめて施して下さい。

特に畑苗代の苗を用いたものは肥料の吸収力が強く、肥切れし易いので、穂肥がおくれないように充分注意して施して下さい。

四、病害虫を完全に防ぐ。

今年は小虫が非常に多くまわりのレンゲの鋤込みにともない、本田に集まつて来ますので、マラソン粉剤、乳剤等で完全に防除して下さい。

その他は平担部に準じ完全に防いで下さい。

病害虫防除

早　稲

(1)めい虫の蛾はすでに出始めています。

五月十日～十五日頃が一番沢山出る頃になると思われますが、この時期にはちようどコムシも多くなりますのでコムシとめい虫の発生具合によつてマラソンかBHCを有効に使つて下さい。

共同防除

(2)五月下旬には唄入り幼虫が多くなりますので、この時期にはポリドール、EPN、デイプテレックス等の有燐剤が特に有効です。

(3)六月中旬には紋枯病が出始めますのでアソジンやモンゼットで防除して下さい。

中　稲

五月下旬に、めい虫とコムシ、六月中下旬に、コムシの共同防除が必要です。

尚、いづれ夫々の時期にはマイクでお知らせしますので気をつけて聞いて下さい。

綜合開発と香長平野

浜田春水

大南国市建設の気運が燃え立つに及んで綜合開発の声が躍動を始め、溜南綜合開発期成同盟会が結成されたのが三十二年十月十二日であつた。

近代平野としては悪条件に満ちている香長平野（主に旧平野）は、なんでこのように悪化したのであろうか。

香長平野に最初の稲作開拓の手がつけられたのは弥生初期からで、適所に集落もできだした。これらに領主的統治形態が発達するに従つて、開田による富の増強が中心的な事業となつたので、原野の各所では思々な局地開拓が進められた。奈良、平安鎌倉、室町と時代を重ねるにつれて開拓は伸んではきたが、まず、当時の労力技術から手頃な所から始まり引水が困難で後へ取残されていた荒原も、やがて無理な引水工事を加えて次々と開田されていつたと思われる。

かくて十四世紀にかけて細川土佐守護四代間が田村城によつていた頃にもなると低湿地の干拓にも手が伸ばされてきた。

過去永い時代にわたる無秩序な開拓も相当に合理化の手も加えられたとみえ、巧みな技法も処々に施されている。

例えば堀の内以南の水系改造や野田口東側からの大埔引水の大工事などはこの時代のものではないのかと推測される。

だが、すこぶる遺憾なことは灌漑用水路一辺倒におわり、大切な天然の排水路の生命を奪つて用水路化したままで、水利の不合理性と局処氾濫因とが今日に遺されてきたことだ。

しかし香長平野は大体今日の状態に開拓せられ、土佐の穀倉たる貫禄を具えていた。その総決算が元禄の大正地検帳に明細に掲げてあるので香長平野開拓の全貌を知ることができる。

しかし、今まで述べたように弥生期以来個々の開拓に委せてきた結果の不合理性は、今次綜合開発へ根本的な重大さをもつて大課題を投げかけている。

これに次で平野は今日えの鍬根をはらむ大変革が起つた。山内氏入国となつて以来、徳川幕府の保身政策が諸藩窮迫の重荷となつて課せられた。

この迫及にあえぐ藩財政を支えるため、殖産興業に懸命となつたのが兼山先生であつた。

まず開田については今まで手がつけられなかつた台地に着眼し、山田堰や野市堰による長岡や野市の高地開拓に着手した。

そして一方では旧平野を保護し、かつ利用面も増大するという狙いであつたのか、出水期の増水をまとめて大洋に送り出すべく平野の東方へ大物部川開通の第一工事に取りかかつた。

しかし旧平野へは土議所かた。

ら自然の流で水が流りこみ昔のままの状態を続けていた。

彼の河河至上長兼は旧平野ギセイの上に成功した。それは渇水期の舟入を渡るために旧平野に注流していた豊富な水を断ち、これを舟入に回流せしめた。

そして舟人の水を旧平野の既存幹線水路へ連結分水して灌漑に当てるようにした。竹黒川もその一つである。

（以下次号）